

国際クルーズの受入環境の整備と ガイドラインの作成方針

令和6年5月20日

目次

1. 国際クルーズの受入環境の整備を加速するための取組み

- ・国際クルーズの受入環境の整備を加速するための取組み
- ・「官民連携による国際クルーズ拠点を形成する港湾」の状況
- ・国際クルーズ旅客受入機能高度化事業
- ・クルーズ等訪日旅客の受入促進事業

2. 国際クルーズの受入環境の整備の現状と課題

- ・クルーズの寄港状況(日本船、外国船)(2019年と2023年の比較)
- ・クルーズターミナルの有無による受入機能の整備状況
- ・国際クルーズの受入環境の整備現状の課題

3. 海外港湾における受入環境の整備の状況

- ・海外事例(クルーズターミナル、交通施設、買い物・観光・飲食施設)の状況

4. クルーズ旅客の受入機能高度化に関するガイドライン(案)の作成方針

- ・ガイドラインを取りまとめる際に考慮すべき事項(資料2、3の集約)
- ・ガイドラインを取りまとめるための視点
- ・ガイドラインの対象とする各状況のケースと記載・対象範囲(案)

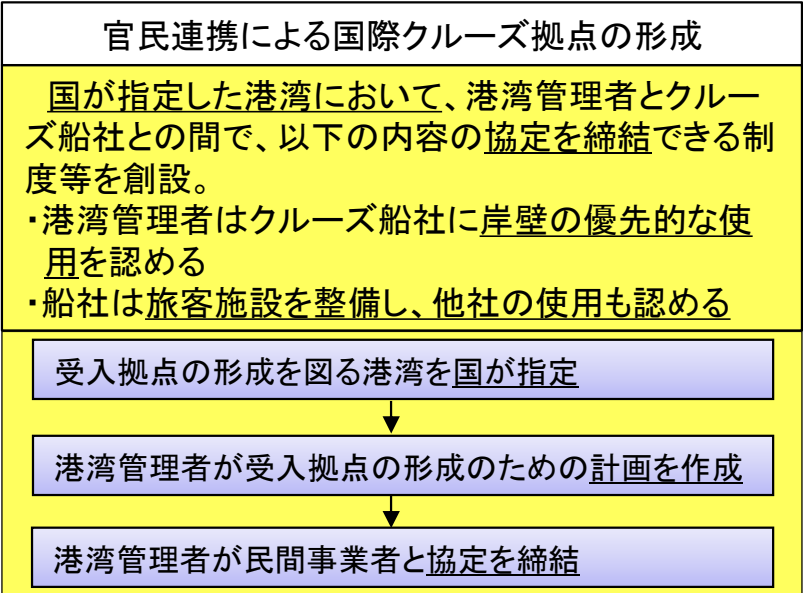
1. 国際クルーズの受入環境の整備を 加速するための取組み

1.1 国際クルーズの受入環境の整備を加速するための取組み

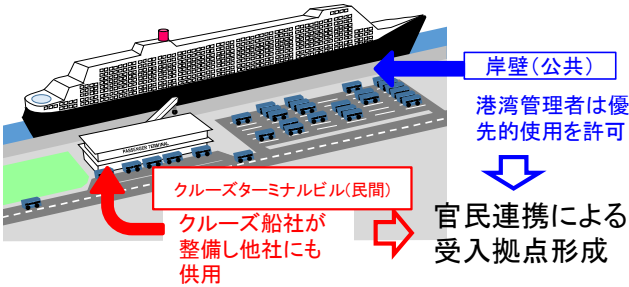
項 目			2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2024年 (令和6年)	2025年 (令和7年)
計 画	明日の日本を支える 観光ビジョン (2016年3月30日)	訪日クルーズ 旅客数				500万人 (目標値)					
	観光立国推進 基本計画 (2023年3月31日)	訪日クルーズ 旅客数	252.9万人 (実績)	245.1万人 (実績)	215.3万人 (実績)	12.6万人 (実績)	0人 (実績)	0人 (実績)	35.6万人 (速報値)		250万人 (目標値)
		外国クルーズ 寄港回数	2013回 (実績)	1913回 (実績)	1932回 (実績)	66回 (実績)	0回 (実績)	0回 (実績)	1264回 (速報値)		2000回 (目標値)
		外国クルーズ 寄港する港湾数	59港 (実績)	64港 (実績)	67港 (実績)	12港 (実績)	0港 (実績)	0港 (実績)	92港 (速報値)		100港 (目標値)
主 な 取 組 み	港湾法の一部改正 (国際旅客船拠点形成港湾の指定)		● 2017.7 法施行、6港指定(横浜港・清水港・佐世保港・八代港・本部港・平良港)	● 2018.6 1港指定(鹿児島港)	● 2019.4 2港指定(下関港、那覇港)						
	国際クルーズ旅客受入機能高度化事業/ 国際クルーズ旅客受入機能 高度化施設整備事業 (受入環境改善に要する費用の一部補助)										
	クルーズ等訪日旅客の受入促進事業 (訪日旅客需要の取り込みに要する経費の 一部補助)										

1.2 「官民連携による国際クルーズ拠点形成する港湾」の状況

○これまでに官民連携による「国際旅客船拠点形成港湾」として9港を指定。
 ○現在、公共による岸壁の整備等とともに、民間による旅客施設等の整備が進められているところ。



【官民の連携による拠点形成のイメージ】



【岸壁の優先使用のイメージ】

・A社(協定船社)による予約(1年半程度前)

月	火	水	木	金	土	日
	A社		A社		A社	

・A社の予約完了後、その他の社が予約

月	火	水	木	金	土	日
B社	A社	C社	A社		A社	

港湾名 (港湾管理者)	第1次募集分 H29.1.31 選定 H29.7.26 「国際旅客船拠点形成港湾」指定						第2次募集分 H30.2.27 選定 H30.6.29 指定	第3次募集分 H31.3.1 選定 H31.4.22指定	
	横浜港 (横浜市)	清水港 (静岡県)	佐世保港 (佐世保市)	八代港 (熊本県)	本部港 (沖縄県)	平良港 (宮古島市)	鹿児島港 (鹿児島県)	下関港 (下関市)	那覇港 (那覇港管理組合)
カーニバル・コーポレーション&plc	○		○			○			
ロイヤル・カリビアン・グループ				○			○		○
MSCクルーズ								○	○
ゲンティン香港		○			○				
郵船クルーズ	○								

1.3 国際クルーズ旅客受入機能高度化事業/ 国際クルーズ旅客受入機能高度化施設整備事業

- クルーズの寄港促進のため、クルーズ旅客の利便性や安全性の向上等を図り、クルーズ旅客の受入環境改善を行うために要する費用の一部を補助する。

事業概要

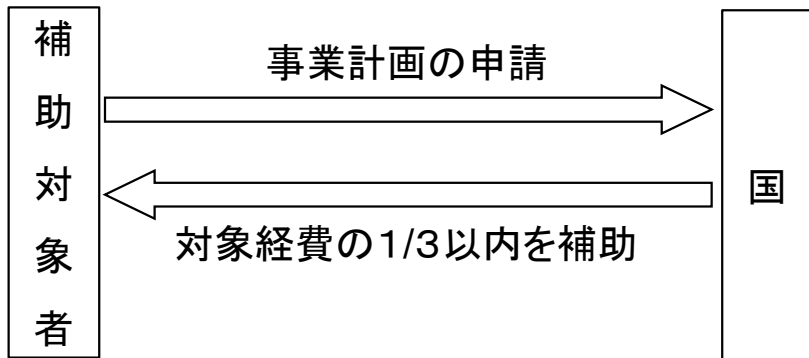
■補助対象経費

- ・クルーズ旅客の移動又は手荷物等の搬出入の円滑化に要する経費
- ・クルーズ旅客が利用する旅客上屋等の受入環境改善に要する経費
- ・クルーズ旅客の安全性の向上に要する経費

■補助対象者

地方公共団体(港務局を含む。)又は民間事業者

■事業スキーム



補助対象経費のイメージ

- :クルーズ旅客の移動又は手荷物等の搬出入の円滑化に要する経費
- :クルーズ旅客が利用する旅客上屋等の受入環境改善に要する経費
- :クルーズ旅客の安全性の向上に要する経費



※ 国際クルーズ旅客受入機能高度化事業： 補助対象経費のうち、駐車場、防塵フェンスの整備を除くものが対象
 国際クルーズ旅客受入機能高度化施設整備事業(★)：補助対象経費のうち、駐車場、防塵フェンスの整備が対象

1.4 クルーズ等訪日旅客の受入促進事業

クルーズ等訪日旅客の需要を確実に取り込み、我が国のクルーズ再興を目指すとともに、港湾周辺等の魅力向上を図るため、クルーズの受入体制の強化、クルーズ旅客等の満足度向上と地域経済効果の創出、クルーズ寄港プロモーションに要する経費の一部を補助する。

補助対象経費

・ クルーズの受入体制強化

●クルーズ受入に向けた安全対策

(例: 船舶航行安全委員会の開催、安全性の現地確認、小規模港湾等における安全性確認 等)

・ クルーズ寄港プロモーション

●新たなクルーズの誘致に向けた訪日クルーズプロモーション

(例: 国際展示会の開催・出展、商談会の開催、デジタル媒体による情報発信 等)

・ クルーズ旅客等の満足度向上と地域経済効果の創出

●地場産品等の消費喚起

(例: 船内レストランでの地元食材提供のスキーム構築 等)

●訪日外国人が楽しめる船内コンテンツのスキーム構築

(例: 船内コンテンツの充実に向けたニーズ調査・商品開発・実証実験 等)

●上質な寄港地観光及び海上観光の造成 (★)

(例: 上質な寄港地観光プログラムの造成、海上観光ツアーの実証 等)

補助対象者

- ・ 港湾管理者
- ・ 地方公共団体
- ・ 民間事業者(登録DMO及び候補DMOを含む)
- ・ クルーズ振興のための地域の協議会等

補助率

- ・ 1/2以内

※(★)については、クルーズに関連した取組に限らず、港湾周辺等における訪日旅客の受入促進に係る事業も対象となる。

補助対象経費のイメージ



2. 国際クルーズの受入環境の整備の現状と課題

2.1 クルーズの寄港状況(日本船、外国船)(2019年と2023年の比較)

・ 2023年での寄港回数は、クルーズターミナルがある港湾で1,090回(67%)、クルーズターミナルがない港湾で536回(33%)で、クルーズターミナルがある港湾が多い。

赤:クルーズターミナルあり 青:クルーズターミナルなし
(港湾名は2023年の状況で塗色している)

港名	2019	2023
横浜港	188	171
長崎港	183	96
神戸港	131	91
鹿児島港	106	82
那覇港	260	79
博多港	229	75
広島港※1	60	59
清水港	40	57
高知港	32	53
東京港	36	49
函館港	47	48
大阪港	62	46
金沢港	51	43
青森港	27	35
石垣港※1	148	35
境港	53	28
名古屋港	39	26
別府港	20	24
秋田港	21	23
小樽港※1	29	21
佐世保港	79	20
名瀬港	20	20
平良港	147	19
油津港	8	17
徳島小松島港	8	16
八代港	19	15

港名	2019	2023
高松港	25	15
宮之浦港	17	15
新潟港(西港区)※2	14	14
新宮港	12	13
唐津港	11	13
室蘭港	5	13
釧路	15	12
宇野港	—	11
仙台塩釜港	15	11
杓形港	8	11
舞鶴港	34	10
下関港	23	9
茨城港	10	9
萩港	10	9
宇和島港	10	9
北九州港	20	8
小木港(佐渡)	10	8
宮古港	5	8
鳥羽港	13	7
細島港	8	7
福山港	—	6
酒田港	8	6
松山港	6	6
青方港	4	6
二見港(東京都)	16	5

港名	2019	2023
伏木富山港	4	5
和歌山下津港	3	5
厳原港	1	5
羅臼漁港	5	5
八戸港	3	4
郷ノ浦港	2	4
八丈島港(八重根港)	3	4
小豆島港	4	4
田子の浦港	—	4
里港(上甌島)	—	4
姫路港	7	3
敦賀港	4	3
福江港	3	3
船川港	1	3
尾道系崎港	—	3
浦郷漁港	5	3
湾港(喜界島)	—	3
伊延港(沖永良部島)	—	3
岡田港(大島)	—	2
能代港	4	2
宇部港	3	2
大船渡港	2	2
根室港	1	2
熱海港(静岡県)	1	2
三河港(蒲郡市)	1	2
岩国港	1	2
西表島港(小浜港)	1	2
仙崎港	—	2

港名	2019	2023
御手洗港(大崎下島)	—	2
長浜港	—	2
兼城港	—	2
座間味港	—	2
鳥取港	—	2
新居浜港	—	2
四日市港	9	1
西之表港	6	1
苫小牧港	5	1
七尾港	5	1
館山港	3	1
輪島港	3	1
あしずり港	2	1
宮崎港	2	1
両津港(佐渡)	1	1
御前崎港	1	1
日高港	1	1
西郷港	1	1
坂出港	1	1
与論港	1	1
神威脇漁港	1	1
三宅島港	1	1
伊東港	2	1
伊根漁港	1	1
古仁屋港(奄美大島)	2	1
与那国港(祖納港)	1	1
青苗漁港	—	1
奥尻港	—	1

港名	2019	2023
白老港	—	1
鷺泊港	—	1
石巻港	—	1
下田港	—	1
初島港	—	1
浜島港	—	1
淡路島港	—	1
瀬戸田港(生口島)	—	1
犬島港	—	1
蒲刈港	—	1
下甌島港	—	1
竹富島港	—	1
波照間港	—	1
中津港	—	1
本部港	—	1
合計	—	1,626

クルーズターミナルありの寄港数と寄港回数の合計		
	2019	2023
港湾数	12港	21港
寄港回数の合計	1,315回	1,090回

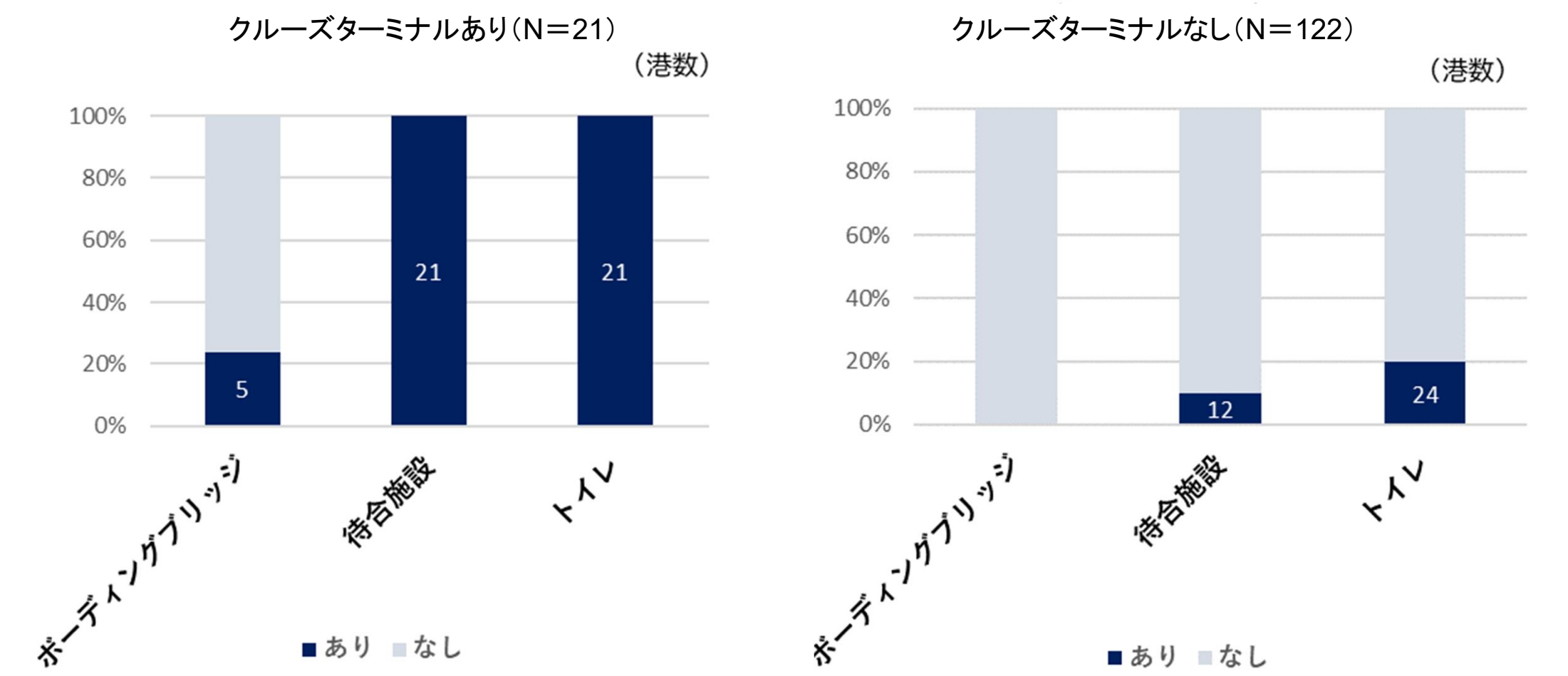
※ガンツウを除く。2023年に1回以上寄港した港湾を表示。

出典: 港湾局データをもとに作成

※1 2024年にクルーズターミナルを整備中若しくは整備済み
※2 現在使用されてないため、クルーズターミナルなしとした

2.2 クルーズターミナルの有無による受入機能の整備状況

- 受け入れ機能は、クルーズターミナルが有る港湾の方が充実している。



※あり: 資料から常設施設が確認できている港湾
※待合設備: クルーズターミナルあり、あるいは雨除け施設ありの港湾

2.3 国際クルーズの受入環境の整備現状の課題

- 業界団体、船社から我が国のクルーズの受入環境の整備について出された意見は以下のとおり。

クルーズターミナルの有無

- クルーズターミナルを整備している港湾はまだ少ない
- 特に出入国の多いファーストポート・ラストポートはクルーズターミナルが必要。クルーズターミナルがない場合は待合所として大型テントが必要

クルーズターミナルの設計、サービス及び機能拡充

- クルーズターミナルは動線が短くなり使い勝手が良くなるよう、岸壁の近くに整備することが望ましい
- 多目的に使える汎用性が高いクルーズターミナルが望ましい
- 2次交通の待機スペース、乗客の待合スペースが必要
- クルーズターミナル内にトイレ、インフォメーションセンター、Wi-Fi等以外、お土産店、商店や免税店も充実すべき
- 荷物転送サービスの導入を検討すべき

クルーズ旅客の受入環境

- ラグジュアリー船の増加に伴い、受入環境が脆弱な港湾への寄港が増加
- ボーディングブリッジ、タラップを整備すべき
- クルーズ下船から各施設までの屋根付き通路の整備が必要

2次交通

- 二次交通の不足が顕著、待ち時間が長い
- 寄港地観光の時間が十分に確保できていない場合がある
- 輸送手段の確保及び人員増員が必要
- フェリー業界とも連携、小型船・観光船を使用すべき

CIQ手続き

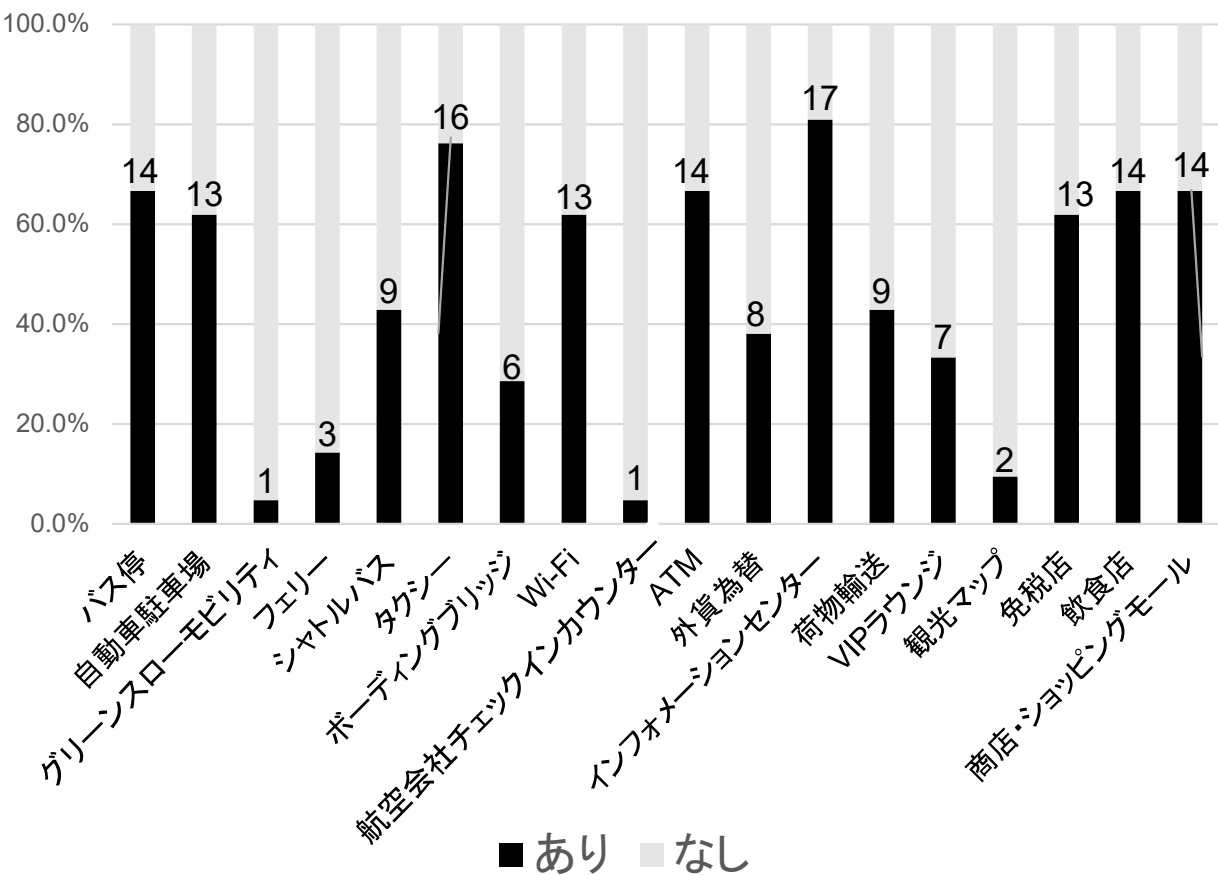
- 出入国審査に長い待ち時間が発生している
- クルーズ2隻同時寄港している際、CIQが対応できない。
- 審査官人数の調整、手続きの簡略化や、施設の充実化、デジタル化が必要

3. 海外港湾における受入環境の整備の状況

3.1 海外事例(クルーズターミナル、交通施設、買い物・観光・飲食施設)の状況

- 数多くの海外港湾を運営する Global Ports Holding ※が運営する港湾からWEBサイトに施設情報がある港湾を対象に設備の状況を確認した(21港湾)。
- 充実が見られる機能は以下のとおり。
 - 交通施設 : バス停、自動車駐車場、シャトルバス、タクシー
 - サービスやクルーズターミナル設備等 : ATM、インフォメーションセンター、Wi-Fi
 - 買い物等 : 免税店、飲食店、商店・ショッピングモール

クルーズターミナル施設の整備状況(n=21)



分類	クルーズターミナル施設	合計	
	クルーズターミナル	17	81.0%
交通	バス停	14	66.7%
	自動車駐車場	13	61.9%
	グリーンスローモビリティ	1	4.8%
	フェリー	3	14.3%
	シャトルバス	10	47.6%
	タクシー	16	76.2%
サービス、設備	ATM	14	66.7%
	外貨為替	8	38.1%
	インフォメーションセンター	17	81.0%
	荷物輸送	9	42.9%
	VIPラウンジ	7	33.3%
	WIFI	13	61.9%
	ボーディングブリッジ	6	28.6%
買い物、飲食、観光	観光マップ	2	9.5%
	免税店	13	61.9%
	飲食店	14	66.7%
	商店・ショッピングモール	14	66.7%

出典: 施設の有無はGlobal Port Holding HPIに掲載の各港の情報をもとに作成。
※Global Ports Holding (GPH) は、国際港湾運営会社として 2004 年に設立された世界最大の独立系クルーズ港運営会社。

4. クルーズ旅客の受入機能高度化に関する ガイドライン(案)の作成方針

4.1 ガイドラインを取りまとめる際に考慮すべき事項(資料2、3の集約)

- クルーズ業界を取り巻く環境が大きく変化する中で、日本が取り残されないために、これからのクルーズの受入環境整備を全国的に進めていくため、ガイドラインの策定を行う。

■海外※と国内のクルーズ業界を取り巻く環境の変化を踏まえた考慮すべき事項

①クルーズ需要の増加

海外:クルーズキャパシティ、乗客数の増加見込

国内:クルーズ再開により需要が徐々に回復、日本寄港の多い中国発着クルーズの運航再開
ニーズの多様化により新たな寄港地の発生

②船舶の大型化

海外:今後数年で20万トン超えの新造船が予定が多数あり

国内:日本へ過去最大の17万トン級が寄港

③オーバーツーリズムの発生

海外:1日あたりの隻数の受け入れ制限、受け入れ場所の制限の実施

国内:陸上の二次輸送(バス・タクシーなど)不足、海洋周辺のコンテンツ不足

④SDGsへの切り替わり(船・港・旅客の嗜好)

海外:陸上給電の港の増加、環境配慮型の船舶の増加、環境への影響を考慮する乗客の増加

国内:日本船社のLNG船の投入、CNPの推進

⑤DXの推進

海外:次世代高速Wi-Fiサービスの船舶への導入、様々な自動化技術の導入

国内:船上の通信環境の改善、生産性向上、手続きの電子化

4.2 ガイドラインを取りまとめるための視点

- クルーズ業界を取り巻く環境の変化を踏まえ、これからのクルーズ受入環境のあり方について、以下のような視点で検討を行い、ガイドラインに反映を行う。

■検討の視点

環境の変化に伴い想定される課題

- ①クルーズ需要の増加
受入可能な港湾数・施設数不足
(現在の港だけでは寄港地が不足)
- ②船舶の大型化
各港の既存の受け入れ環境の
規模不足
- ③オーバーツーリズムの発生
クルーズ船の寄港による寄港地の
疲弊
- ④SDGsへの切り替わり
陸上給電や燃料補給施設の有無に
より寄港地候補から除外
- ⑤DXの推進
国際競争力の低下、労働力不足への対応
の遅延

検討の視点

- 受け入れ環境整備が必要な港湾とは？
(クルーズターミナルが必要な港や物流岸壁での安全な受け入れに必要な設備とは？)
- 大型船対応が必要な港湾とは？
(計画する受け入れ規模や必要性や今後の造船動向は？)
- 今後の二次交通のあり方とは？
(シェアモビリティや小型船舶の活用検討ができないか？)
- 持続可能な港湾に必要な機能・設備とは？
(整備推進の制度の検討やCNPとの連携ができないか？)
- 港湾クルーズ分野で取り入れる技術とは？
(空港や物流分野で参考する技術や、クルーズ船社の取組の状況は？)

4.3 ガイドラインの対象とする各状況のケースと記載・対象範囲(案)

- ガイドラインは以下とおり整理したケースについて、前頁の5つ視点を踏まえて検討する。
- 受入施設の整備手法については新築や増築だけではなく改修や既存施設の活用も合わせて検討する
- 受入環境の整備については小型船やバス・タクシーといった二次交通との連携についても考慮して検討する
- また、専用岸壁の有無による考慮事項についても合わせて検討する

